



学会ホームページ <http://jasce.jp>

041号(2017年11月27日)

目次

- 第14回全国大会報告
- 次期大会について
- 理事増員の規約改正
- 『協同と教育』編集委員会から
- 国際大会共催のお知らせ
- 学会ワークショップ
- マスター開催について
- 今後の予定(判明分)
- <アドバンス>開催報告
- 各地の研究会・勉強会

第14回全国大会報告

大会テーマ
協同教育と学習評価

10月27日(金)～29日(日)の3日間、第14回全国大会を開催しました。初日は「プレ大会」として岡山県立倉敷青陵高等学校のご協力のもと、同校の公開授業研究会に会員が参加しました。6教科・13の研究授業を参観するとともに、授業ごとの研究協議会にも参加し、同校の研究テーマである「高質な学力の養成のための『主体的・対話的で深い学び』の視点による学習過程の改善」をめぐって活発な協議を行いました。



青木実行委員長の挨拶

28日-29日は会場を岡山大学教育学部に移して「本大会」を開催しました。本大会では、実行委員会企画の記念講演のほか、会員の皆様による自由研究発表分科会(14分科会・52件)、ワークショップ(9件)、ラウンドテーブル(2件)を開催しました。参加者は216名でした。

記念講演では、京都大学教授の西岡加名恵先生を講師にお迎えし、「『主体的・対話的で深い学び』の実現とパフォーマンス評価」と題してご講演を頂きました。記念講演は岡山県内の公立学校園にも呼びかけて公開しましたところ、250名を超える参加者があり、会場は大変な熱気に包まれました。また同日夕刻に開催した情報交換会では100名を超える参加者があり、協同教育を志す諸氏による活発な意見交換が行われました。

本大会初日から夕刻にかけては、台風22号の影響もあり、ご不便をおかけしたと存じます。しかしながら、協同教育のさらなる展開と可能性を予感させる、実りある大会にして頂けたと思います。ご参加頂いた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(大会実行委員長 青木多寿子)



西岡加名恵先生の記念講演

次期大会について

来年度の大会は梅花女子大学(大阪府茨木市)を会場に以下の日程で開催される予定です。みなさま、ご予約ください。

2018年11月16日(金)

プレ大会 WSの予定

2018年11月17日(土) 第1日

梅花女子大学

2018年11月18日(日) 第2日

梅花女子大学

理事増員の規約改正

大会中に開催された総会で、理事増員に関わる規約改正が行われました。現在の理事は12名ですが、会員の増加に伴い、理事の仕事量も増加してきました。そこで、学会運営をより円滑にするため、15名に増員する提案がなされました。総会により以下の項目について審議を行い、承認されました。新しい会則、細則については、学会HPにて確認できます。なお、次の理事選挙から、理事は15名に増員されますが、会長指名の1名のみ、今年度から増員されます。新しい理事が決まり次第、ご報告いたします。<会則>※()内が改正前の文言です。

第14条 本会に次の役員を置く。
理事15まで(12まで)

<細則>

第6条 新会長は、選挙で選出された理事に加え、必要に応じて5名まで(4名まで)理事を指名することができます。

JASCE

●2017年度会費納入のお願い

本年度の会費4,000円を納入していない会員の方は、なるべく早く納入をお願いいたします。次の口座にお振込み下さい。

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行
支店 ○一九
口座番号 (当座)0315442
名義 日本協同教育学会

◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00100-8-315442
加入者名 日本協同教育学会

●『協同と教育』編集委員会から

◇投稿について

『協同と教育』への投稿は随時受け付けています。投稿受理から査読

を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月を要します。会員の皆さんの積極的な投稿をお待ちしております。

○投稿論文の長さについて

従来は論文の長さについて刷り上がり10ページを上限としておりましたが、今般より刷り上がり12ページ(テンプレートの12枚24ページという意味ではありません)を上限と致します。なお編集委員会で特に認めた場合や論文審査の過程でより詳細な記述を求める場合、この限りではありません。

◇投稿論文の種類について

「研究論文」と「実践研究論文」の性格の違いについてお問い合わせを受けることがよくあります。「研究論文」は理論的または実証的な研究です。また、実践的な内容であっても理論的または実証的な研究は研究論文とし

て取り扱うこともあります。「実践研究論文」は教育場面における実践を対象として、教育実践の改善を目指した具体的な提言をおこなう研究です。

●国際大会共催のお知らせ

明後年2019年はJASCE設立15年目を迎えます。この15周年の佳節に向け、理事会では杉江会長を中心に種々の記念企画を検討しております。その中で、同年3月22-24日に台湾で開催されるIASCE(国際協同教育学会)の国際大会を台北教育大学とともに共催することが岡山大会の総会において了承されました。今後、会員の皆様に種々の情報提供、参加支援を行って参りますので、楽しみにしててください。

学会ワークショップ今後の予定(判明分)

<ベーシック>

◇12月9日(土)~10日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎 0604教室
講師:水谷 茂

◇2018年1月5日(金)~6日(土)【主催】

会場:天使大学(札幌市)
講師:石田裕久

◇2018年2月24日(土)~25日(日)【主催】

会場:宮城女学院大学(仙台市)
講師:和田珠実・石田裕久

◇2018年3月3日(土)~4日(日)【主催】

会場:創価大学(八王子市)
教職大学院棟 V409教室
講師:石橋裕子・関田一彦

◇2018年3月10日(土)~11日(日)【主催】

会場:鳥取看護大学(倉吉市)

講師:岡田範子・安永悟

<アドバンス>

◇12月9日(土)~10日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎 0605教室
講師:伏野久美子

◇2018年3月3日(土)~4日(日)【主催】

会場:創価大学(八王子市)
教職大学院棟 V309教室
講師:伏野久美子

<マスター>

◇2018年3月24日(土)~25日(日)【主催】

会場:岡山大学教師教育開発セン

ター・東山ブランチ(岡山市)

講師:理事6名

<一日研修>

◇11月26日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎 0604教室
講師:水谷 茂

※定員になり次第、受付を終了します。お申込み方法、ならびにワークショップの詳細は下記URLをご覧ください。

(<https://jasce.jp/1031workshop.php>)

JASCE

学会ワークショップ・マスター開催について

今年度末の平成30年3月24日(土)～25日(日)にワークショップ「マスター(上級)コースを開講します。本来ならば2年ごとの開催を予定しておりました

が、マスター開講に対する会員各位のご要望が多かったこと、ならびに平成31年3月には、台湾での国際協同教育学会(IASCE)の開催が予定さ

れておりますので、1年前倒しの実施を決定したところです。会員各位の積極的なご参加をお待ちします。詳細は学会HPをご確認ください。

学会ワークショップ<アドバンス>開催報告

日程:11月11日(土)～12日(日)

会場:南山大学人間関係研究センター(名古屋市)

講師:関田一彦・石田裕久

毎年11月の恒例になっています南山大学人間関係研究センター主催の協同学習ワークショップ(アドバンス)が開催されました。<アドバンス>は、<ベーシック>の修了者を対象としており、今回の参加者は20名でした。協同学習は、自己統制と協調を必要とする課題の達成・相互活動を通して、学習者の自立や自律を促す指導論で

す。ここでは、単なる技法としての協同学習にとどまらず、指導方法論としての協同教育について実習を交えながら学びました。参加された方々からは「協同とは?を考えるために定期的に受けた内容でした。また、迷ったら受講します」「学生を育てるための協同学習ですが、その協同学習を通して自分自身が成長できる場であると思います」「現場でやっていることがどうであったのかの確認と、新たな情報・知識を得ることができ、また、校種の違う方の現場の声や願いを知ることが

できました」などの感想が寄せられました。(石田裕久)



各地の研究会・勉強会

(東京・関東地域)

協同教育カフェ in 八王子

◇次のオープンカフェは12月9日(土)の予定です。今回は、協同カフェのメンバーそれぞれの実践を発表したり、協同学習の技法を体験できるワークショップをしたり、初めてのみなさんにも「協同学習が分かる!」一日を創ります。日本協同教育学会の理事である関田一彦さんと、上越教育大学の長場浩正さんをお招きして、協同学習の技法紹介や、ホワイトボードを使った振り返

りを行って頂くことになりました。多くの皆さんの参加をお待ちしています。参加申し込みはこちらからお願いします。

<http://kokucheese.com/event/index/494691/>

連絡先:関田一彦

(sekita@soka.ac.jp)

(名古屋・東海地域)

名古屋・協同の学びをつくる研究会

◇10月例会の報告

10月例会を10月20日(金)19時か

ら名古屋大学教育学部第1講義室で開催しました。発表者は大村勝久先生(静岡県立浜松北高校)。テーマは「高校数学における協同学習による深い学び」。高校数学における「深い学び」の本質は何で、それは如何にして実現されるかを、大村先生の豊富な実践事例にもとづいて考えました。数学的概念と概念が相互につながることの重要性が再確認されました。また、さらなる授業改善を目指し、知識構築型ルーブリックの評価基準

JASCE

を、教師と生徒が一緒に考えた事例も紹介されました。

◇特別例会(NALS8)の報告

11月23日(木)14時～17時、名古屋大学教育学部第3講義室で、モンゴル国立教育大学ニャムジャブ教授、モンゴル国立教育大学附属学校オユンボト教諭をはじめ、モンゴルの教育研究者4名をお招きして、モンゴルにおける学びあいの授業研究をテーマにした特別研究会(NALS8)を開催しました。モンゴル教育制度の歴史と現状の報告のあと、知識伝達型授業から知識構築型授業デザインへの転換にCompetency-Based Assessment Rubricをはじめ活用した試みとして小学校2年生の算数の授業実践の報告と分析があり、最後にモンゴルの学校教員養成における知識構築型授業の展望が語られました。充実した3時間の討議でした。



連絡先:水野正朗(東海学園大学
mizunokita@yahoo.co.jp)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇11月24日(金)に北海道の天使大学より鹿内信善先生をお招きして「看
図アプローチ」の勉強会を開催しまし



た。参加者は27名プラス異例の学生4名でした。授業で看図アプローチに関心を持った梅花女子大学看護学科の1年生が飛び入りで参加させていただきました。鹿内先生が参加者と交わされる、温かい励ましのこもった対話的展開に魅了されました。

看護師の適切な判断力にもとづく看護実践の土台には、「観察」と「アセスメント」の能力が不可欠です。看図アプローチによる「変換」「要素関連づけ」「外挿」を引き出す発問と協同学習による思考・仲間との対話は、その能力の育みにつながるという手応えを実感しました。また看図アプローチには「図」が不可欠ですが、深い学びに導く素敵な図をYuki.Ishida先生が見事に描いておられ、学び終えた後に知る図の深い仕掛けに感服しっぱなしでした。終了後は久々に懇親会を開催し、23時の閉店間際まで話が尽きませんでした。集合写真に志摩先生・中野先生・淵田先生は急ぎの移動で写れず残念でした。



◇今後の開催予定

場所:グランフロント大阪北館2階
ナレッジキャピタルThe Labアクティ
ブスタジオ

時間:19時～21時、日程:2018年
1月26日、3月23日

参加申し込み先:緒方巧(梅花女
子大学 t-ogata@baika.ac.jp)

(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇9月研究会の報告

第2回研究会を9月23日(土)に34

名の参加を得て開催しました。発表者は、鳥取県米子市立東山中学校の中村祐介先生(数学)、教材/単元名は「二次方程式と因数分解/二次方程式」でした。研究会では「学習班で同じ問題に取り組み、全員が解決することを条件とすることで、自分たちで教え合いながら、苦手な生徒も意欲的に取り組ませることができていたかどうか?」を巡って活発な議論が交わされました。

◇今後の開催予定

第3回は平成29年12月2日、第4回は平成30年3月3日、いずれも土曜日の午後2時から午後5時30分です。第3回は岡山県倉敷市立味野中学校教頭の赤崎哲也先生より、同校を含めた複数の中学校における授業改革推進チームの取り組みをご発表頂きます。また第4回は久留米大学の安永悟先生を講師にお迎えし、LTD話し合い学習法に関するワークショップを開催します。

連絡先:高旗浩志

(岡山大学教師教育開発センター
takahata@okayama-u.ac.jp)

(福岡・九州方面)

授業づくり研究会

◇今後の日程

「第41回授業づくり研究会」は12月9日(土)に開催します。安永悟先生(久留米大学)から「LTD基盤型反転授業の試み」、埴雅典先生(山梨大学)から「学生の主体的・協調的な学びをもたらす反転授業～山梨大学の事例～」と題して大学の授業実践とその分析報告があります。お申し込みは協同教育研究所「結風」のHPからお願いします。研究会の詳細についてもこのHPで紹介しています。
(<http://yuikaji.me/wiki.cgi>)

連絡先:安永悟

(yasunaga_satoru@kurume-u.ac.jp)